

2019年11月6日(水)

『卓話』

国際ロータリー第2630地区 ロータリー財団委員会
補助金小委員会 奨学金・学友担当 道家 嗣典 様
(岐阜加納ロータリークラブ)

本日は、ロータリー財団の概要、プログラムの歴史、使命、何故別組織なのか、シェア・システム、寄附、最後にまとめという流れでお話いたします。

ロータリー財団のTRFは「The Rotary Foundation」です。「国際ロータリーのロータリー財団」ということです。ロータリー財団の構成員は法人会員は非営利法人の国際ロータリーのみです。構成員とは株式会社の株主のようなもので、株式会社の取締役者に相当するロータリー財団の管理委員はRI会長エレクトが推薦し、ロータリー理事会が選出します。国際ロータリーの100%子会社がロータリー財団ということ



財務を見ていきます。まず収入比較です。昨年度末の年次報告によると、国際ロータリーの収入は1億684万ドル。それに対してロータリー財団の収入は3億9,000万ドルです。約4倍の収入があります。次に純資産です。昨年度末の純資産は国際ロータリーが1億3,684万ドル、ロータリー財団は10億5,868万ドルです。約10倍の資産があります。子会社の方が大きくなったというようなイメージで捉えていただければよいと思います。

次に、ロータリー財団の歴史を振り返ります。ロータリー財団の父、アーチ C. クランフは1869年に非常に貧しい家庭に生まれました。アメリカの作家ジェームズ・フェニモア・クーパーの血筋であることを誇りにしていたそうです。ミドルネームのCはクーパーの略です。アーチ・クランフは最初のアマチュア劇団を作った人で、子どもの頃には公演にも出ていたそうです。音楽を好み、フルート奏者でもあり、音楽とビジネスについても語っております。12歳の時に家計を支えるために学校を辞めたため、社会福祉施設で働きながら、夜学に通い学力の不足を補足していたそうです。16歳の時にクリーブランドのクヤホガ製材所のウェイターとなり1日1ドルの給料を貰って働いておりました。その後、出世して社長に、28年後にはオーナーになりました。実業家としてオハイオ州で商業活動や地域社会活動を行い活躍しました。彼は貧しい少年時代を過ごしましたが、実業家として成功し、ロータリアンとして名を残すことになりました。そんな彼は、ロータリーをこよなく愛していました。ロータリー馬鹿とも言われたような方です。42~43歳の時にクリーブランドのロータリークラブ会長になりました。寝ても冷めてもロータリーだというふうに言っておりました。

そのクラブ会長としての最後の挨拶で、「緊急事態に備えた非常時の基金を作ろう」と提案しました。45歳で国際ロータリーの理事になりました。今現在皆さんが目にする標準ロータリークラブ定款と細則を書き上げたのも彼です。47、8歳の時にはRIの会長になっております。アトランタ国際大会の時に彼は、「ロータリーが基金をつくり、何かよいことをしようではないか」、「Doing good in the world」と提案しました。今でもロータリー財団で残されている言葉です。そして、それが採択されましたが、始まりは26ドル50セント。この呼びかけに対しての反応は良くありませんでした。現在の貨幣価値で150万円程度です。RIの元会長達も誰一人いなかったようです。しかし反対する人もいませんでした。無関心ということです。クランフの他愛も無い夢だと言っている人もた

んいたと、アーチ・クランフの書簡に残されております。あくまで個人的なプロジェクトだと考えられていたようです。

55歳の時にロータリー救援資金を立ち上げました。これは災害時に使われるものです。関東大震災でも使われました。59歳の時には基金が5,000ドル以上に増えています。その時、この基金をロータリー財団と改めました。基金ができたのが1917年ですから、昨年で100年を迎えました。1917年というと、メルビン・ジョーンズがライオンズクラブを創った年です。

アーチ・クランフは1951年、82歳で亡くなりました。本当によかったと思うのは、ロータリー財団が着実に育っていく姿を見届けてお亡くなりになったということです。彼は、「今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきである。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからだ。」と言っております。ロータリアン史に残っている言葉です。

次に、財団プログラムの歴史についてお話いたします。財団が作ってきたいろいろな補助金支給の一番最初は、1930年エドガー・アレンが設立した国際身体障害児協会（イスターシールズ）です。ポール・ハリスはその理事でした。アレンさんは自分の子どもが1907年に路面電車の事故で亡くなり、基金を立ち上げるためのキャンペーンを行っていたとのこと。初期の頃の補助金の支給については、何をやればよいか模索していたような感じがします。最初は高校生を対象に国際平和に関する論文コンテストや、いろいろなゲストを招いて話をするプログラムを行っていました。それから第二次世界大戦の戦禍で苦しむベルギー、フィンランド、オランダの国民に寝具や食糧を送るための資金提供をしました。サンフランシスコ会議で国際連合を設立する際にもロータリーが呼ばれております。その後、ロータリー財団は高等教育のために奨学金を作る目的に変わりました。以前は財団親善奨学生と言っておりましたが、現在は財団奨学生という名前になっております。未開発国への国際理解、研究会、友好関係。最初はロータリアンと家族のための救済方法を準備しようというのがロータリー財団のスタートです。

1947年にポール・ハリスが亡くなりました。ポール・ハリスは長年病気に苦しんでいました。彼は「銅像や記念碑などは建てず、献花も遠慮してほしい。その代わりロータリー財団に寄附してほしい。」と言い残しました。1月27日に亡くなり、その年の1年間で現在の貨幣価値で50億円の寄附金が集まったそうです。「高等教育のためのロータリー財団フェロシップ」で今は平和フェローという名前ですが、この時にはポール・ハリス・フェローという名前になっております。

財団奨学生と交換留学生は全く違います。ロータリー財団奨学生の多くの方が著名なリーダーとなっています。この間の地区大会でご挨拶いただいた名古屋音楽大学の学長や三重大学の学長も2630地区が送った財団奨学生です。ご存知の方も多し緒方貞子さんは日本で2番目の奨学生です。緒方さんは「ロータリーは現在もまだ続けているコースに私を乗せてくれました。もし私が国際親善奨学生としてアメリカの大学に行かなかったならば、国際理解の研究に従事しようとは思わなかったでしょう。」とおっしゃっております。彼女は大変な世界平和に貢献されています。これも私達のロータリー財団への寄附によるものなのだと思います。

新プログラムは3H「Health・Hunger・Humanity」です。これはRI会長エレクトが提唱し、1979年からスタートしたものです。その中の1番の優先項目が、ポリオの予防接種です。3Hプログラムの第1号です。3Hプログラムについては具体的な目標が設定されております。保健衛生第1はポリオ、2、3番は幸福度です。飢餓追放については水資源、人間尊重については識字率の向上です。それらに対して私達は何ができるのか。それが親善平和を推進することであることをご理解いただきたいです。

そして、1985年から全世界で始まっているポリオプラスプログラムは、これまでに20億人の子ども達にワクチンを打っております。現在ポリオはどのような状況かという、全世界で発症したポリオの99.99%減少させております。35万件だった発症数は2017年には22件、2018年5月には8件。残るは2か国のみです。新しい補助金モデルとしては平和保護、国際平和フェローシップです。2013年には「未来の夢計画」です。国際ロータリーの使命は「世界理解・親善平和を推進する」。ロータリー財団の使命は「世界でよいことをしよう」。財団の使命は国際ロータリーの使命を達成できるよう具体的な行動をとるということです。「One Rotary」という言葉があります。国際ロータリーとロータリー財団は独立した法人ですが、1つのロータリーとして機能しています。一致団結することでその使命を果たします。私達は会議の中で国際ロータリーを支援し、そしてまた例会での寄附を通じてロータリー財団を支援をしているということです。ロータリー財団は国際ロータリーの使命を達成するための手段とお考えください。

先程申し上げた3つの優先項目に加えて、RIの6つの重点分野があります。これはグローバル補助金の6つの分野です。主なプログラムとして先程申し上げましたポリオプラス、ロータリーフェローシップ、平和フェロー、補助金です。DGが地方補助金、GGがグローバル補助金です。ポリオプラスのプログラムにつきましては、ロータリーの最優先項目。1979年フィリピンの子ども達にやったのが始まりです。野生株のポリオを撲滅しないとまた再流行する可能性が高いということでしたが、現在はパキスタンとアフガニスタンのみとなりました。また、ビル&メリンダ・ゲイツ財団は私達が寄附したものに対して倍額を上乗せして出してくれます。私達が1年につき5,000万ドル寄附できれば、3年間で4億5,000万ドルが提供されます。私たちが1年で5,000万ドル集めるのが条件ということになります。

ところで、なぜ別組織なのかと言うと、非営利法人ですから完全に寄附を受けることは可能ですが、税制上の優遇措置ができません。2つの多額の資金管理を行うために作りました。また、税制上の優遇措置を得るためです。法人運用域の免税、ロータリー財団の免税、そして寄附者の所得控除です。財団の協力組織としては日本は8番目にできました。公益法人ロータリー日本財団です。国際ロータリーとロータリー財団は毎年年次報告書を出しております。見たことが無いとよく言われます。幹事報告で年次報告が届いていますと言って回覧しておりますが、ほとんど見ない方もいらっしゃるかと思います。RIのウェブサイトでもご覧いただけますのでぜひ見ていただきたいと思っております。

外部団体からの評価としては、世界を変えている慈善団体トップ10の第3位に入っております。91%が寄附活動に、運営費は9%です。シェア・システムとは、寄附したものが地区の補助金として返ってくることです。1,000ドルを寄附していただくと900ドルは自分達が活用できます。寄附額の上位5か国はトップがアメリカ、日本は3位です。アメリカは全寄附額の50%、日本は5.1%です。

ロータリー財団は皆さんの寄附を世界各地での奉仕活動に役立てております。ロータリー財団は他の団体に寄附する団体ではありません。ロータリーの活動のために自分達が自分達が基金を集めて有効に活用するための団体です。ロータリアンが所有する財団であることをご認識いただき、ぜひとも寄附にご協力をお願い申し上げます。